

第2回 幼保小連絡会の まとめ

= 17小学校区における取り組み =

日時：令和3年(2021年) 1月～3月実施

令和2年度(2020年)豊中市幼保小連絡協議会 第2回連絡会実施一覧 No.2

小学校区	桜南	塚塚	熊野田	島地内	豊島西	豊原北	小曾根	庄野島	内田	庄内南	豊高	南川	
メインテーマ	「つなごう 子どもの育ち～幼児期の終わりに育ててほしい10の姿をみずえて～」												
認定こども園	てらうちこども園 認定こども園 あけほの幼稚園 東邦幼稚園	あけほの幼稚園 認定こども園 あけほの幼稚園 認定こども園	熊野田幼稚園 認定こども園 旭丘こども園	認定こども園 あけほの幼稚園 認定こども園 あけほの幼稚園 認定こども園	認定こども園 あけほの幼稚園 認定こども園 あけほの幼稚園 認定こども園	認定こども園 あけほの幼稚園 認定こども園 あけほの幼稚園 認定こども園	小曾根こども園 高川こども園 てらうちこども園	小曾根こども園 高川こども園 てらうちこども園	庄野島幼稚園 認定こども園 あけほの幼稚園 認定こども園	庄野島幼稚園 認定こども園 あけほの幼稚園 認定こども園	栄町こども園 庄内西こども園 庄内こども園 せんなりこども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園	認定こども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園	認定こども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園 認定こども園
幼稚園	豊中幼稚園 豊根幼稚園	豊中幼稚園 豊根幼稚園	豊中幼稚園 豊根幼稚園	豊中幼稚園 豊根幼稚園	豊中幼稚園 豊根幼稚園	豊中幼稚園 豊根幼稚園	豊中幼稚園 豊根幼稚園	豊中幼稚園 豊根幼稚園	豊中幼稚園 豊根幼稚園	豊中幼稚園 豊根幼稚園	豊中幼稚園 豊根幼稚園	ラ・サント幼稚園 大阪音楽大学 付属音楽幼稚園	
保育所(園) 事業所内保育事業 小規模保育事業施設	とうほう保育所 さくらづか保育園 ゆたか保育園 豊中ひだまり保育園 中塚塚ひだまり保育園 HOPPA北塚塚	くまのだ保育園 おひさま保育園 旭丘かいせい保育園 あい保育園西島立	あけほのぶんぶん ゆたか保育園 ひだまり保育園 あい保育園寺内 ほづみ緑木の森保育園	にっこりこことぶき園 トレジャーキッズ ふれあい緑地保育園 夢の島保育園 ほづみバブー保育園	ひかり保育園 おひさま岡町保育園 アスク豊根南保育園 トレジャーキッズ ふれあい緑地公園	ひかり保育園 おひさま岡町保育園 アスク豊根南保育園 トレジャーキッズ ふれあい緑地公園	わかば保育園 くりのみ保育園	わかば保育園 くりのみ保育園	わかば保育園 くりのみ保育園	わかば保育園 くりのみ保育園	わかば保育園 くりのみ保育園	わかば保育園 くりのみ保育園	わかば保育園 くりのみ保育園
児童発達支援センター													児童発達支援センター 庄内南小学校

螢池・刀根山小学校区

1、今年度の連絡会議について

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、保幼小連絡会議の実施ができなかった。

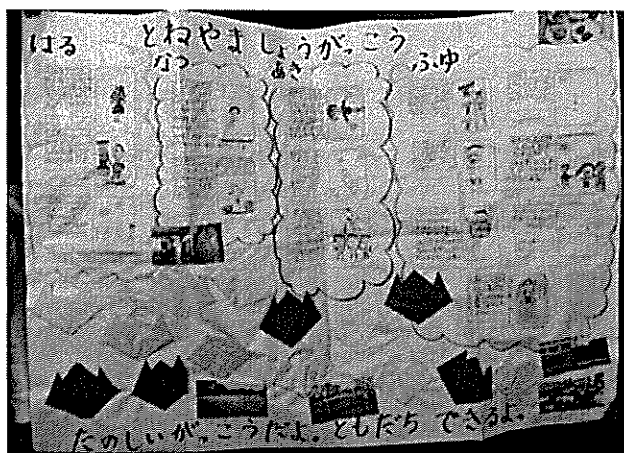
2、今年度の新入児童保護者説明会について

次年度入学する新入児童保護者説明会についても、学校へ来場してもらっての開催は中止し、小学校のホームページの「eスクール」というカテゴリーに、動画やパワーポイントを音声入りで掲載し、Web視聴による説明会を実施した。

3、今年度の保幼小の連携行事について

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実際に小学校に園や保育所から幼児を招待しての取組みは中止せざるを得なかった。

そんな中でも、新年度新たに迎える新1年生のために、今年の1年生が「小学校は〇〇なところだよ」「小学校に来たらこんな楽しいことがまっているよ」「小学校ではこんな勉強をするよ」というようことを題材にしてそれぞれのクラスで模造紙にポスターを作り、それを園や保育所に送った。



- ・今年度の連絡会は、新型コロナウイルス感染症防止のため書面での開催となった。校区内の小学校の「学校だより」、近隣の保育園・幼稚園の「園だより」を交換し、それぞれの学校、園の教育方針についてまとめたお便りを作成していただき、共有を図ってくださった。
- ・年長児の入学予定の小学校からは、現1年生からの手紙や小学校生活を描いたDVDを送って頂いた。手紙は掲示し、DVDは朝の登園時間などに放映した。子どもたちはそれを見ながら、知っているお友達を探してみたり、校舎内・授業の様子などを知り、入学後の生活を楽しみにしている姿が見られた。
- ・卒園児が一番多く入学する小学校とは、電話にて、子どもたちの様子、保護者の様子などを伝えた。
- ・螢池小学校、刀根山小学校の1年生から、模造紙に写真付きの学校紹介のメッセージを頂いた。教室、音楽室、体育館、校庭、給食室、図書室の写真を見ながら5歳児の子ども達は就学の期待を膨らませ喜んでいる姿があった。「小学校入学を待っているよ！」と新一年生を迎えるための温かいメッセージで、子ども達も保護者も不安な気持ちが和らいだと思われる。
また、そのメッセージを子ども達の見線の高さで玄関に掲示し、他クラスの子どもや保護者に紹介すると、立ち止まって見ている親子の姿が見られた。
- ・小学1年生の子どもたちが、「学校案内」の写真に作文を載せた学校紹介や、小学校の様子が見られるDVDを届けてもらい鑑賞した。子どもたちから「知ってるお兄ちゃんや」「鳥おる」「体育館デカ!」「プールで泳ぎたい」と、学校に行くことを楽しみにする声があがっていた。
- ・小学校から訪問や、書面で、年長児の子どもたちの様子を伝えた。また、入園後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。
- ・小学校の子どもたちから学校紹介のポスターをもらった。年長児保育室の壁に張ると指さししながら、校内の教室の写真をみたり、紹介文を読んだりしながら、入学への期待を寄せていた。



刀根山小学校の先生が
小学校紹介のお手紙を届けて
くれました。給食を食べていた子
どもも、急いで給食をほおぼって
下りてきました。「安心して小学
校に来てください」と言ってもら
えて、ワクワク・ドキドキ…しなが
らも嬉しそうでした。

桜井谷・桜井谷東・箕面自由学園小学校区

- ・小学校の様子が分かる DVD を作成して各園所にお渡ししました。
DVD の内容は、大きく 3 つあり、・ 1 年間行事・登校から下校までの 1 日の流れ・図書館や保健室など学校の施設の紹介です。自分たちが入学したときのことを思い出し、新 2 年生として「紹介したいこと」を児童が考え、作成しました。
また、新 1 年生が円滑に小学校生活を始めることが出来るように、各園所での様子をお聞きし、学級編成などに反映させました。
- ・体験入学については、実施できなかったため、児童会が新入生向けのビデオレターを作成し入学式で見ってもらう予定にしている。
- ・入学説明会も実施できずビデオ視聴により実施した。校長から入学予定児童にメッセージを録画し視聴してもらった。
- ・小学校の子ども達から DVD やお手紙をいただきました。DVD では実際の学校の様子などを見ることができました。お手紙は文章だけではなく絵も描かれていたので、想像しやすく、気持ちを込めて書いてくれたことが園児に伝わり、大喜びで何度も見ていました。
小学生のみなさんが園児たちを待っていてくれることが分かり、安心感につながりました。
又、DVD やお手紙をいただいたことで、小学校での生活に夢を膨らませながらクラスの友達と話し合いをし、期待や不安を共有することができました。
- ・小学校の先生と本園年長児の担任が、例年通り対面でお話させていただいたので、園児一人ひとりの様子を伝えることができ、安心感がありました。
- ・各小学校から受け取ったお知らせなどを保護者に配布した。
- ・各小学校の担当教員と電話または訪問により年長児の様子を伝え、情報共有できるようにした。
- ・近隣の小学校との関りをもつことはできなかったため、併設小学校との交流を工夫し、小学生と関わる機会を設けた。
- ・電話引継ぎがメインとなったが、例年同様園児一人ひとりの引継ぎを丁寧に行った。
- ・小学校から、DVD など映像を頂き、保護者・子どもに見て頂いた。また、新 1 年生へのプレゼントを頂いたので、その小学校へ行く子どもに配布した。
- ・緊急事態宣言発令中は、保護者の方に、ご協力いただき、登園人数も少なく、ひとり一人のご家庭に、園日よりや、親子でクッキングのレシピや、制作キットなどを郵送し、ホームページに作り方などを配信して、ご家庭でも親子で楽しんでもらえるようにした。
親子で参加してもらう行事や、地域の活動も中止なり、保育者と子どもたちで遊んだ。
後日、ドキュメンテーションや、写真を掲示して、共有した。保護者の方から喜んでいただきました。

克明・箕輪小学校区

箕輪・克明小学校校区 幼保小連携

1、【学年（年長・1年生）の取り組み・子どもの様子の交流】

①学年（年長・1年生）の取り組み（コロナ対策も含む）

（おひさま岡町）

コロナ禍でも、身体をしっかりと動かしてあそぶこと、友だちとの繋がりがあそびを大切にしてきました。6月から通常保育となり、遊ぶ時でもできるだけ間隔をあけて給食を食べたり、座ったりとソーシャルディスタンスをとっていました。また、戸外にでかけ帰ってきたときには、必ずアルコール消毒をして園に入るなど手洗い・うがい・消毒はこどもたちも常に心掛けていました。

（こもれびのもり）

- ・責任感がもてるように毎日のお当番活動（日にち確認・金魚の餌やり等）をしています。
- ・最年長クラスだと自覚し、知っていることを相手に伝えていけるように、年少のベット敷きを一緒にしている
- ・時計を見て見通しをもって行動できるように活動が始まる時に片付けや終了時間を聞いてから行動している
- ・コロナ対策として食事時間は2グループに分け座席も配慮しながら時間差で食べ始めている。

（とねやまこども園）

- ・例年は新クラスのスタートが4月であるが、新型コロナウイルス感染症により、園児に対して登園自粛の協力依頼をしていたため、4～5月は登園児も少なく、クラス全員そろってのスタートは6月であった。いろいろな制限がある中での保育であったが、子ども達が「ねんちょうさんになったらこんなことができる」「やってみよう」と思っていたことは経験できるように、行事なども取り組んできた。
- ・10月の運動会では子ども同士が密にならないようにプログラム内容に配慮し、取り組んだ。特にパラバルーンは子ども達が楽しみにしていた演目だったので実現したく、中に入る技は避けるなど内容構成を工夫した。
- ・例年12月に『とねやまワンダーランド』と称し、自分たちで描いたり作ったりした遊び場で、他クラスの友達や、保護者、地域の校舎の方々とやりとりを楽しみ(ごっこ遊び)、交流していたが、今年は控え、各クラスで相談しながら『おばけやしき』や『ロボットの世界』を作って、クラスの友達と楽しんだり、同学年で交流したりした。
- ・2月の生活発表会も、一度に集う人数を少なくしたり、マスクを着用したりして、できるだけ向かい合わないようにするなど配慮し、これまで楽しんできた遊びや子ども達の得意なこと、見てもらいたいことを劇遊びの中に取り入れるようにした。一方、例年行っている学年2クラスでの合同合奏はできなかった。

（ともだちこども園）

近隣との交流だけでなく、園内での交流も制限する生活を送らねばならない時期もあったが、その中でできることを模索していく一年だった。たてわり交流と銘打ち、3・4・5歳児のグループを作り一緒に触れ合いあそびを楽しんだり、ゲームや体操をしたりする時間を持った。5歳児は下の学年の子をリードし気を配る様子が見られ、下の学年は上の学年にあこがれを持ち新しいことに挑戦していく姿も見られた。例年は乳児クラス（0・1・2歳児）とも交流もしているが幼児と乳児の交流はコロナ対策のため今年度は持たなかった。

（ぶっこう幼稚園）

- ・4、5月の休園期間中は、電話で家庭での子ども様子を聞いたり、「ぶっこうブログ」を通して担任からのメ

ッセージを発信した。

- ・日々の保育の中で音楽に触れる機会を多く持ち、一年の集大成として音楽会で発表をする。
- ・年長組は2クラスあるが、お互いの交流を深めるために、自由時間等は、クラスに関係なく遊べる場を設けている。
- ・緩急をつけた保育を心がけており、特に大きな行事の後は、散歩や近くの公園に行くなど、普段の保育では出来ないことを行っている。
- ・2度目の緊急事態宣言が発令されるに当たり、音楽会でのメロディオン演奏を取りやめ、急遽、木琴などの鍵盤打楽器に変更した。

（蛭池文化幼稚園）

- ・コロナ対策の為、マスク着用・密を避けた活動が基本となるが、集団でしか味わえない楽しさや協力する楽しさを日々の活動の中で取り入れている。
- ・小学校へ向け、長時間椅子に座り取り組む活動（SI あそび・月刊絵本など）を取り入れ集中したり自分の力で考えたりできるような活動を取り入れている。

（克明小）

毎日お互いの気持ちを聞き合う活動を通して友だちのことを知り、心の距離を縮め、いろいろな友だちと関わることができるようになった。困っている友だちには自然と声をかけ合ったり、いろいろな友だちと誘い合ったりして遊ぶ姿が見られるようになった。

学校探検や学校で働く人にインタビューをし、学校にはどんな場所があり働く人にはどんな役割があるのかだけでなく、働く人がどんな思いで働いているのかを知り、自分たちはたくさんの人たちに見守られて学校で生活していることに気づくことができた。

また、外国にルーツのある子どもたちへの取り組みとして、世界のあいさつや音楽、ダンスなどに触れ、保護者にゲストティーチャーとして来ていただいて遊びや歌を教わった。また、運動会で世界のダンスを発表した。自分や友だちの命について考える取り組みとして、精子と卵子が会ってから出産までについて知った。名前の由来について保護者に書いてきてもらった。また、生まれてから今までにどんな人たちに支えられてきたかについてまとめた。児童養護施設の職員さんに来てもらい、どんな気持ちで働いているか、子どもたちへの思いを聞いた。今年赤ちゃんが生まれたおうちの方にインタビューを行い、どんな気持ちでお世話をしているかなど聞いた。自分や家族、友だちを大切にしたいという「これからの自分」について考えていけるようにした。

（箕輪小）

国語 低学年の児童の実態に合わせて話す・聞く力をつけていこうとしている。

「スイミー」 単元名「スイミーに手紙を出そう！」主人公の心のつぶやきを考え、ワークシートの吹き出しに書き活動を中心に。手だて；動作化を取り入れる。挿絵を効果的に用いる。

図工 上手に絵を描いたりものを作ったりすることがめあてなのではなく、自分の目で見たものや頭で考えたものを自分の手で心をこめてつくるのが大切だということを伝え、未経験のことに対しても前向きに取り組めるよう、努めている。・自画像(いないいないばあ!)→鏡を見て、手で感触を確かめながら、自分の似顔絵を描いた。・ねがいをこめて★だるまさん→設計図に作りたいたるまのデザインを考え、形にしていった。

②子どもの様子（コロナ禍の様子も含む）

（おひさま岡町）

自粛明けの登園では、子どもたちは登園するのが待ち遠しく元気に登園していました。今年は、“荒馬”という青森の伝統民舞に取り組みました。5歳児ならではの、動きや地面をしっかりと踏んで友だちと踊りを合わせる楽しさを感じました。“ラッセラーラッセラーラッセラッセラー”という声掛けも楽しさの一つです。

（こもれびのもり）

- ・言葉で伝えようとするが増え、気付いた事があったり、ダメなことはしっかりと伝えている。
- ・遊びながらも時計を見て、片づけの時間を伝えあっている。
- ・好きな遊びを思いっきり楽しみ、その中で友だちと関わり協力して遊んだり、ルールを決めて遊んでいる
- ・年が明けてからはランドセルを購入してもらった事で、小学生になる期待が膨らんでいる一方で落ち着かなかったり、手が出てしまう姿も盛られる。

（とねやまこども園）

・運動会では鳴子ダンスやパラバルーン、リレーなど、どのようにしていったらよいかクラスみんなで話し合う機会をもつようにし、出てきた意見をもとに作戦を考えたり、練習に取り入れたりし、勝ったり負けたりしながら、その都度話し合う経験を重ねてきたことで、みんなで相談しながら遊びを進めていく楽しさを感じられるようになってきた。またその中で友達のいろいろな姿に気づき、互いに認めたり励ましたりする姿が見られるようになった。勝敗だけではなく、「最後まであきらめなくて自分の力をしっかり出すこと」や一つの目標に向かって「みんなで力を合わせる」ことの大切さを実感し、やり遂げたことが一人一人の自信につながり、運動会以降、特に縄跳びや鉄棒、中当てなどの運動遊びに積極的に取り組むようになってきた。

・『おばけやしき』や『ロボットの世界』の取り組みでは、制作の過程でグループの友達と話し合う機会が増え、思いを出し合ったり、一緒に楽しく遊ぶために工夫したりしながら、自分たちで遊びを進めていこうとする姿が増えてきた。またいろいろな素材や用具にふれ、丁寧に作りこんでいく楽しさが味わうことができた。

・生活発表会ではクラスでどんな内容の劇遊びにしたいか話し合ったり、みんなで台詞を考えたり、自分たちで必要なものを作ったりした。また劇中で役になりきって演じるだけでなく、大道具を移動したり、効果音を鳴らしたり、互いに教え合い、助け合いながら、一つのを自分たちで協力して作り上げていく楽しさを味わうことができた。舞台の上でそれぞれが頑張っている姿を素直に認め合ったり、他クラスの友達や保育教諭に見てもらい、「すごいねえ」「さすが年長さん」などと声をかけてもらうことで、自信をつけた。保護者に見てもらうことを楽しみに、頑張ってきたところがあるので、緊急事態宣言下で延期となり、まだ見えていないのが残念である。

（ともだちこども園）

4. 5月は登園する子も少なく乳児と幼児に分かれながらの合同保育を行っていた。継続して登園する子は、不安な様子も見られたが友達と遊ぶことで、平常を保つことはできていた。登園を自粛していた子ども達は自粛が開けると友達と会える喜びを感じる子もいれば、家庭で過ごしたリズムと変わり戸惑いを見せる子も多く見られた。園に来ればリズムが整い、友達や先生との交流もでき、また規模は変わりながらも行事（運動会・発表会）を通して成長していく子ども達の姿から、集団生活の重要性を感じた。

(ぶっこう幼稚園)

- ・保育再開後しばらくの間は、登園時に保護者の方と離れがたい姿を見せる子や、ちょっとしたことで不安に感じる子もいたが、おおむねスムーズに元の生活に戻って行った。
- ・普段から交流を図っているため、クラスを越えて子どもたちの回結力が強い。
- ・運動会での組体操や鼓笛隊発表を経て、より一層団結が強まり、全体的な雰囲気も明るくなった。
- ・何事にも一生懸命取り組もうとしている姿勢が見られる。
- ・音楽に触れることが多いため、音楽が好きな子どもが多い。
- ・本番を1か月半後に控えた時点で、メロディオン担当の子は木琴に楽器が変更となったが、すぐに順応し演奏する姿が見られた。

(蛭池文化幼稚園)

- ・コロナ禍で行事が縮小となり、例年より運動会など練習量が減った分のびのびと遊ぶことができ子ども同士の関わりが増えて楽しい雰囲気でも過ごしている。
- ・制限されることは多いが、子ども達にとってはゆとりを持って過ごすことができ他児との関わりの中で相手を思いやることや認め合う姿が多く見られている。
- ・身体を動かして他児との関わりを楽しむことで、ストレスを溜め込む姿はなかったように感じる。
- ・コロナウイルスに対して、ある程度理解ができる為自分たちでも手洗いや消毒マスクの着用を意識する姿が見られる。

(克明小)

分散登校中や1学期は、密をさけ朝休みは自席ですごすなど、友だちとのつながりをつくりにくい状況であったが、係活動やできる範囲でのグループ活動を通して、1学期終わりにはずいぶん友だちの名前を覚え、関わりが増えていった。全体的に人なつこく、素直で、様々なことに興味を持ち学習や生活に前向きに取り組むことができる。

(箕輪小)

4月の分散登校時は、緊張している子も多かった。だが、人数が半分な分、子どもに細かい声掛けができ、子どもたちは安心して学校生活ができていた印象。多くの行事が縮小されたが、比較対象がないので悲壮感はないように感じる。

今年度の子もたちは、言葉で伝えるのが上手な子が多い。手が出るケンカは少ないが、言葉で言いすぎてしまっって傷つけてしまうことがあり、日々指導している。

休み時間は友だちと楽しく過ごしている。外では増え鬼や縄跳び、中ではこまや図書館へ行って読書をする子が多い。

学習内容は1学期で通常通りのところまで行えた。コロナで活発に話せない分、書く活動を意識している。気になるのはマスクをしているので、声が小さい子が多いことである。声の大きさについて積極的な指導ができない分、今後の課題に感じている。

2、【つなげよう、子どもたちの育ち～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を見据えて～】

①小学校までにつけておきたい力

（おひさま岡町）

- ・集団の中で意見を出す力
- ・友だちの意見に耳を傾け解決に向かう力

（こもれびのもり）

- ・先生や友達の話にしっかりと耳を傾けて聞く力
- ・今、何をすべきなのかと周りを見て行動する力
- ・自分がしたいこと・好きなことを見つけて集中して取り組む力

（とねやまこども園）

- ・楽しいことや好きなことを自分で見つけてやってみようとする力。
- ・「できる」「できない」ではないが、あきらめないうでコツコツと頑張る力。
- ・自分の思いを言葉で表現するとともに、人の話を聞こうとする力。
- ・自分のことが好き、友だちのことが好き、自分のことも友だちのことも、まわりにいる人たちのことも大切にしようとする力。

（ともだちこども園）

「めざす子ども像 “人とつながり生きる力の基礎を培う”」

こども園では0歳児から友達と生活を共にし、基本的な生活習慣を身につけ、友達や周りの大人との信頼関係を築き上げている。人とかかわる心地よさを味わい、自己肯定感を育み、生きる力の基礎を培っている。その中に「幼児教育において育みたい三つの柱『知識や技能の基礎』『思考力・判断力・表現力の基礎』『学びに向かう力・人間性等』」がある。

（ぶっこう幼稚園）

本園の教育方針は「知育」「徳育」「体育」です。子どもたちが自分の身の回りの事を自分で出来るようになること、自分の思いを表現するためのツールとしての言葉、音楽、描画の知識や技術を身につけること、健康な体を作るために運動や食べる物に対する知識を身につけることを目指し、日々の教育を行っています。

（蛭池文化幼稚園）

- ・会話を理解する力
- ・初めてのことに對しても進んでやってみようとする力
- ・気持ちを切り替える力
- ・平仮名の読み書き
- ・活動に集中し、落ち着いて参加する
- ・最後まで諦めずにがんばる力

（克明小）

着替え、食事、持ち物の管理などが1人でできる。

（箕輪小）

- ・自分の気持ちを話す力。授業では、感じたことや思ったことを話したり、書いたりする活動が多いので、簡単な意見を持てるように練習している。また、日常的に友だちに「ありがとう。」や「ごめんね。」「やめて。」などと思いを伝えることが学校生活でもとても大切だと思う。
- ・話を最後まで聞く力。低学年では「相手の話をわかろうとして聞く」のを目標にしているため、相手の顔を見て、最後まで聞く習慣が大事だと感じる。
- ・なんでだろう？と思う力。興味をもって「なんでだろう。」と考えることが全ての学習につながっていく。

②育てほしいこどもの姿

(おひさま岡町)

- ・一人一人が意欲的に生活に向かうこと ・ともだちと協力し一つのことをやり遂げる（こもれびのもり）
- ・自ら挨拶をしたり、「ありがとう」「ごめんね」など言葉をしっかりと伝えようとする
- ・周りに流されず、好きなことに没頭できる ・友だちと一緒に思いきり遊ぶ
- ・困っている子がいたら気にかけてたり助け合っていく ・自分のことが大好きになれる（自己肯定感）

(とねやまこども園)

- ・できることは自分でしようとし、できないことは友達や周りの人に困っていることを伝える、またそんな友達の様子に気づき、助けようとする姿。
- ・相手の立場に立って考えたり、自分の気持ちに折り合いをつけたりして解決しようとする姿。
- ・友達のよさに気づき、一緒に活動する中で工夫したり協力したりして遊びを進めようとする姿。

(ともだちこども園)

幼児期の終わりまでに育て欲しい姿として10姿がある。（「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然とのかかわり・生命尊重」「数量・図形、文字等への関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」）これは到達すべき目標ではなく、個別に取り出されて指導するものではない。こども園での生活や遊び、周りの人達との関りを通して育み、“健やかな心と体をもつ”“主体的に考え行動する”“豊かな感性を持つ”“自分なりに表現する”子どもに育て欲しいと願っている。

(ぶっこう幼稚園)

本園は仏教精神に基づいた「心の教育」を理念としています。それを一言で表すと、「有り難うの心を育てる」に尽きます。自分が「今、ここに在ること」は当たり前的事ではなく、周りにあるありとあらゆる人・物のお蔭で今の自分が存在するということを感じられる心や、その心を育てるための具体的な知識を持った子にお育てし、小学校へとお送りしたいと考えています。

(蛭池文化幼稚園)

- ・苦手なことにも諦めずに何度も挑戦しようとする ・自分の思いを自分なりの言葉で相手に伝える
- ・友だちや異年齢への友だちへ思いやりの気持ちを持ち接する ・豊かな感性 ・自分に自信を持つ
- ・集団生活における協同性

(克明小)

- ・自分や友だちを大事にできる。 ・気持ちを伝えられる。 ・成功体験を積み、自信を持つ。

(箕輪小)

- ・前向きにチャレンジする姿。箕輪小では、高学年になるにつれて自己肯定感が下がる傾向がある。失敗を恐れて、消極的になってしまうのが課題である。そのため、低学年の間に自己肯定感を高めつつ、挑戦することの大切さ、失敗の大切さについて繰り返し伝えている。
- ・感受性が豊かな姿。お花を見て「きれいだな」と感じたり、給食を食べて「〇〇が美味しいな。」と感じたり、友だちの縄跳びの技を見て「かっこいいな。」と感じたり。日常の様々な場面で小さな感動を感じられる心を大切にしたい。

- ・ 克明・箕輪校区では、対面での連絡会に替えて、書面での報告を行い、学校だよりなどを交流した。
 - ・ 本校では、報告内容を1年生の担当者以外の職員にも回覧し、校区の取り組みについて共有することができた。
 - ・ 1年生の児童が、新1年生にあてて学校のことを紹介する手紙を書き、保育所や幼稚園に送った。
-
- ・ 小学校の様子が分かるDVDを作成して各園所（2か所）に渡した。作成にあたって、どのような内容にするかを児童らが考える取り組みをした。
 - ・ 子どもたち同士の直接の交流は難しいと判断したが、双方の子どもたちの様子を園だより、学校だより、学年だよりで交流をした。文章での交流で幼保小の活動を意識することができた。これにより、幼保小の円滑な接続に活かすことができた。
 - ・ それぞれの今年度の活動内容をまとめ、交流をした。
-
- ・ 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面開催をした。「学校だより」や「園所だより」を双方で配布し、子どもたちの様子や活動内容を共有した。
 - ・ 小学1年生の子どもたちが、「学校案内」の写真に作文を載せた学校紹介や、小学校の様子が分かるDVDを届けてもらい鑑賞した。子どもたちから「知ってるお兄ちゃんや」「鳥おる」「体育館デカ!」「プールで泳ぎたい」と、学校に行くことを楽しみにする声があがっていた。
 - ・ 小学校から訪問や、書面で、年長児の子どもたちの様子を伝えた。また、入園後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。
-
- ・ 今年度の連絡会は、新型コロナウイルス感染症防止のため書面での開催となった。校区内の小学校の「学校だより」、近隣の保育園・幼稚園の「園だより」を交換し、それぞれの学校、園の教育方針についてまとめたお便りを作成してくださり、共有を図ってくださった。
 - ・ 年長児の入学予定の小学校からは、現1年生からの手紙や小学校生活を描いたDVDを送って頂いたので、手紙は掲示し、DVDは朝の登園時間などに放映した。子どもたちはそれを見ながら、知っているお友達を探してみたり、校舎内・授業の様子などを知り、入学後の生活を楽しみにしている姿が見られた。
 - ・ 卒園児が一番多く入学する小学校とは、電話にて、子どもたちの様子、保護者の様子などを伝えた。
-
- ・ 今年度はコロナ禍ということで連絡会及び体験入学等は中止になり書面開催となりました。子ども達の育ちや取り組みを書面にて集計して頂いたり、園だよりの配布をしました。
小学校より、メッセージカードをいただいたり、学校紹介DVDを子ども達と見ました。
 - ・ 気になる子を中心に、小学校には電話又は訪問して頂き、様子を伝え情報共有をし、引き続き連携を取るよう確認しました。

大池・少路・上野小学校区

- ・今年度の連絡会および体験入学について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催とした。
「学校だより」や「園所だより」を双方で配布し、子どもたちの様子や活動内容を共有した。
- ・小学校生活のイメージがもてる写真等を四つ切の画用紙にまとめて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した交流会（招待会）に参加予定だった各園へ配布した。

- ・入学予定の園には担当者が訪問し、児童の引継ぎなどを例年通り行った。
- ・4つの園には（入学者が多い園）各クラスごとに壁面かざりを作って送った。
- ・他の園には子どもたちがメダルを作成し、各園所を通じて受け取ってもらった。
- ・今年度は連絡会や体験入学ができなかったため、「園所だより」をいただき、子ども立花町の様子や活動内容を学年、学校全体で共有した。

- ・入学予定の学校より学校生活の紹介のDVDや“学校で待っているよ”の1年生が作成したお手紙を頂いたりし、それを見る事で学校入学への期待や友達同士、色々話す機会が出来楽しい時間となった。子どもたちがお礼の手紙を書きたいという事で作成し、学校に持って行く。たくさんの業務の中、1年生の全担任の先生が出て来て頂き、温かい対応に感無量だった。
- ・連絡会で情報交換する機会が持てなかったので1月～3月までの園だよりをメールにて回覧する。
- ・切れ目のない支援を継続するため、学校職員に来園頂き年長児の子どもの様子を見てもらい引継ぎを行った。

- ・小学校体験や連絡会が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施されなかった。学校だより、クラスだより、園だよりをお互いに配布し、子どもの様子や活動内容を共有した。
- ・小学校体験が実施できなかったが、小学校の子ども達から手紙や、学校の地図のようなものなどもらった。入学へ不安に思っている子どももシール貼りなど楽しく出来て嬉しそうにしていた。
- ・小学校へ年長児の様子を伝えるために、電話をすると園に来園して頂け、直接教員の先生と話をする機会を頂けて安心して送り出すことが出来る。

- ・進学予定の各小学校の写真や、付近の街の様子などの写真を園児たちに見せた。

野畑・北緑丘小学校区

- ・今年度の連絡会は感染拡大防止の観点から書面での開催とした。具体的方法としては当番校の本校から各園所小に本年度のテーマに則して具体的な取り組みを書き添った旨のアンケート用紙を作成して送り、記入していただいたものを本校が「報告書」としてまとめた。
それを各園所小にメールまたは FAX 等で返送し各園所の取り組みを共有し、今後のコロナ禍におけるそれぞれの取り組みの参考にしていただき次年度につなげることにした。
- ・体験入学に関して本校では、校舎内での見学は難しいと判断したが、グラウンドの大きさや遊具など小学校の大きさや雰囲気も少しでも味わってもらって、入学へのモチベーションとなれば、との思いから、各園所の希望日に人数を聞いて、多い場合は調整して数日に分けて運動場で遊んでもらった。その際に1年生の児童たちが作ったメダルをプレゼントした。
また、本校紹介の DVD を作成してお渡しした。DVD は後日返却していただいた。
- ・「体験入学の運動場遊びでは園児さんたちは目をキラキラさせてとても喜んでいました」と地域の会合でお会いした地域の園の先生方から余りある感謝のお言葉をいただいたことは何よりであった。
- ・各小学校から、体験会に代わる DVD を届けて頂きました。校舎の様子や学校での一日の流れや授業の様子など、とても興味深く熱心に見ていました。
- ・隣接の野畑小学校に学校訪問をさせて頂き、「給食はどこで食べますか?」「運動はどこでしますか?」「テストの時の持ち物はありますか?」といった子どもたちの質問に、一つ一つ丁寧に答えて頂いたことで不安な気持ちがなくなったり、授業中の教室を静かに1周回らせて頂き、「うわー、緊張したわ!」とつぶやいたり、いい表情を見せていた。一年生が作ってプレゼントしてくれた、ぶんぶんゴマがとても人気で、貸し合いながら喜んで遊んでいました。
- ・各進学先の小学校への電話連絡や園訪問により、年長児の子どもたちの様子を伝えました。
また、入学後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認しました。
- ・小学校の子ども達からの学校紹介 DVD を届けてもらった。DVD を観て、「学校って広いな」「ちょっと小学校のことが分かった」「いろんな場所とか部屋があるね」や、体育館の広さに驚き、「こども園のホールが3コ(分)かな?」など、自園との比較をしていた。DVD に見知った1年生の顔を発見し、親近感がわいた様子が見受けられた。
- ・DVD をお返しする際に、年長クラスの今の様子が分かるクラスだよりを渡した。子ども達が生活や遊びをどの様に仲間と共にしているのかを少しでも知ってもらうことが出来ればと思っている。
- ・小学校の雰囲気を感じられるように校庭で遊ばせてもらう機会をつくった中で、園との違いを発見したりその魅力を感じたりしていた。
- ・取りまとめ校あてに園の取り組みについて文書で伝えた。
低年齢の保育園なので、直接入学にはつながらないが、幼児期への繋ぎとして取り組んでいる姿を伝えた。

東豊中・東豊台・東泉丘小学校区

- ・コロナ禍における感染防止策を講じながら、交流会をする方法として次のように考えた。
内容は、少しでも小学校の様子を分かっていたくために、園の先生引率の下、授業の様子と運動場や校舎周りを見学いただく程度は考えていた。
実施日に来られた園が密にならないよう、2～3時間目と時間帯に幅を持たせた計画を考えた。
- ・当日、コロナ拡大状況が続き、見学会は実施されていない。その代わりに、1年生の生活科で1年間を振り返る取り組みをしていたため、そこを活用した。新しい1年生入学に向けて、小学校のおすすめの場所を紹介しようということで、グループで場所を決めて、おすすめポイントをカード（画用紙八つ切り程度）を書かせ、いくつか集めて近隣の園に配布し、年長園児が見える場所に貼っていただいた。
- ・現在の1年生から、近隣の幼稚園、こども園の今春入学する予定の園児に向けて、小学校の生活の様子や、特色ある活動について、写真や絵を入れて、1年生が書けるようになった文字で励ましの文を添えて、説明・紹介をした大きな掲示物を作って各園に届け、少しでも入学児童さんの不安がやわらぐようにした。園児たちはとても喜んだようで、いくつかの園からは、園児さんたちからのお返事の絵や文が届いた。
- ・電話、及び訪問により、園児の様子や配慮を要する事柄について情報共有を行った。
- ・小学校の子どもたちから「みんなのこと、まってるよ」のお手紙をもらった。
受け取った5歳児はとても喜んで、「しょうがっこうのおねえさん、おにいさんにおてがみをかきたい」と、早速、お返事を手紙やお絵かきでかき、職員が小学校に届けた。
- ・今年度は、小学校見学ができなかったため、手紙をもらったことで入学を楽しみにするきっかけをつくってもらい、期待をふくらませることができた。いただいた手紙は園内に掲示し保護者にも見ていただいた。
- ・小学校へは、入学予定の子どもたちの様子をしっかりと引き継ぎし、入学後も連携し、情報を共有していくことを確認した。
- ・今年度は体験入学と交流会ができませんでしたが、小学校の子ども達からいただいた手紙を読んだり、生活科の授業で制作した作品を見ながら小学校はどんなところなのかを話したり、小学校ではどんなことがしたいかを友達と話し合う時間を持ち、発表し合う機会を作りました。その中で子ども達は、小学校への期待を膨らませることができました。
- ・小学校の先生方とは、電話などで子ども達の様子について連携を図ることができ、今後も継続して連携を進めていきます。

南丘・新田・新田南・西丘小学校区

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、幼保小連絡会は2回とも中止としました。
オンラインでの開催も考えましたが各園所のネット環境の状況を考え、難しいと判断しました。
- ・体験入学や幼保交流会も、感染防止のため中止。感染状況によっては、小学校見学だけでも実施したいと思っておりましたが、緊急事態宣言が出たため、これも中止となりました。
双方の子どもたちの様子を教職員が理解し、それぞれの日常の活動で意識することで、幼保小の円滑な接続に活かすことにしました。
- ・今年、唯一取り組めたのは、校長と担当が行った園所訪問です。子どもたちの様子（特に支援の必要な子どもたち）を見学させていただき、丁寧な聞き取りをさせていただきました。

- ・幼稚園や保育園へ訪問をして、入学予定児童と直接話をした。入学への不安を和らげるとともに、楽しみになれるように話をした。その後、個々の児童についての引継ぎで、クラス分けや配慮することなどを聞いた。
- ・子どもたち同士の直接の交流は難しかったので、入学説明会に来た保護者に、一年生からのお手紙と育てたアサガオの種をプレゼントした。担任の先生が、次に入学してくる一年生のために手紙を書くことを児童に伝えると、ひらがなで丁寧に学校を紹介するような文を書こうとする児童がたくさんいた。
- ・既に入學した児童について、幼児期の様子や保護者とのやりとりなどを聞いた。学校からは現状の課題なども話し、保護者と学校が同じ方向を向いて児童に関われるように常に連携をとっている。

- ・今年度の体験入学は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、子どもたち同士の直接交流は中止した。その代替として、現1年生全員が学習の生活科の一環として学校紹介動画を作成し、学校ホームページに掲載した。

- ・3月の非常事態宣言が解除された後、近隣の校長先生から学校訪問のお話をいただきました。
園としては、小学校近辺の散歩や良ければ校庭にでも入らせてもらえたらと思っておりましたが、現1年生も来校を楽しみにしていると言われ、感染対策を行いながら学校訪問が実現しました。当日、ワクワクしながら出発した子ども達。小学生のお兄さん、お姉さんに出迎えてもらおうと緊張する様子もうかがえましたが、一緒に施設見学や授業体験させてもらい、小学校に向けて貴重な体験となりました。
- ・小学校へ電話連絡し、年長児の子どもたちの様子を伝えた。また、入学後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。
- ・小学校よりお手紙を受け取った年長児はとても喜んでおり、「早く小学校に行きたいな」と友達同士で話をする様子があった。
- ・子どもたち同士の直接の交流は難しいと判断したが、小学校教諭に来園していただき、実際の子どもたちの様子を見ていただいたのち、教員間で情報共有を行うことで幼保小の円滑な接続に活かすこととした。

- ・今年度の連絡会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各施設から 1 名と人数制限がある中での開催だった。各施設での状況を共有し、グループワークではそれぞれの施設でこのコロナ禍で子育て親子に私たちができることはなんだろう？と付箋を使って話し合い、それぞれの施設で様々な工夫をされている事を知ることができた。

東丘・北丘小学校区

- ・今年度の連絡会および体験入学について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催としました。「学校だより」や「園所だより」を双方で配布し、子どもたちの様子や活動内容を共有しました。
- ・今年度の連絡会および体験入学について、小学校の子どもたちの手紙と1年生の児童が育てた朝顔の種を、入学予定の子どもたちに各園所を通じて贈りました。
- ・小学校の様子が分かるように、小学校へ行くことが楽しみと思ってもらえるように1年生児童（声のみ）が学校探検（案内）をする動画を作成し、各園所に届けました。

- ・学校見学会の時に、見学にきた子に1年生児童の書いた手紙を渡した。1年生の教室前廊下には、1年生児童が年長児に紹介したいことを絵に表し掲示した。
- ・生活科で取り組んだ1年生をむかえる会の取り組みについての生活科カードも学校見学会に合わせて掲示し、様子がわかるようにした。むかえる会は入学後動画で実施予定。
主に学校の紹介やクイズをグループごとに考えた。子どもたちは入学してくる新一年生が楽しく来れるように、不安がなくなるようにと紹介内容を考えていた。
- ・ひじり幼稚園、北丘聖愛園へ訪問し、年長児の様子の引き継ぎを行った。その際、現在の1年生児童の様子も交流した。

- ・子ども達の直接の交流は難しく、例年通りには行えなかったが、各校の支援担当の先生などに来園していただき、次年度進学する子ども様子を見ていただいたり話を伝達したりした。
- ・今年度の連絡会および体験入学について、東丘・北丘小学校区では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催とした。「学校だより」や「園所だより」を双方で配布し、子どもたちの様子や活動内容を共有した。

- ・小学校から支援学級の先生が子ども達の様子を見に来てくださった。来られなかった小学校へは電話連絡し、子どもたちの様子を伝えた。また、入学後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。
- ・小学校が楽しい所だと感じて欲しい、期待を抱いて入学して欲しいという思いから、『今年度は在校生との交流は出来ませんが…』と、学校見学の形で体験入学をさせていただいた。廊下から授業風景を見て、タブレットを使用しての授業に子ども達は目を輝かせていた。見学の後に校庭で遊ばせてもらった時には、鉄棒など、こども園の物との大きさの違いに少し不安げな様子もあり、小学校に対する期待と緊張を感じた。お土産にと頂いた朝顔の種には1年生からの手紙が添えられていて、持ち帰った子ども達は嬉しそうに保護者の方に伝えていた。

- ・今年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各校園の子どもたちの様子、および施設での対応がわかるようなお便り（学校便り・園だより）を資料として各校園所に送ることとし、それを書面での交流とした。

- ・小学校体験入学については児童の検温・マスクの着用、教室には入らず廊下での見学など感染対策をとりながらおこなった。その際、小学生からお手紙ももらい入学を楽しみにすることができた。
- ・毎年、近隣の小学校の交流会に年長児全員で参加させて頂いていますが、今回はコロナウイルスのこともあり、辞退させて頂きました。その為、個人(保護者)と行ってもらい、参加した子ども達は、校庭で遊べたり、勉強風景も見ることができ、小学校に行く気持ちが高まったようでした。
- ・年長児のお店屋さんプロジェクトに小学校の校長先生達を招き、5歳児のプロジェクト保育で育つ力を書面と実際に見てもらい伝えることができた。
- ・小学校訪問では廊下から授業の様子を見る機会があり、小学生からお手紙や、あさがおの種を1人ずつもらい、実際に会話は出来なかったが校庭でも遊ばせてもらい小学校に期待を高める事ができた。

桜塚・南桜塚小学校区

- ・今年度の連絡会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、引継ぎのための連絡会のみ開催して、情報共有を行った。また、体験入学は実施できなかったが、1年生の子ども達がタブレットを活用して、小学校の様子を紹介するDVDを作成して、各園等での視聴をお願いした。また、1年生が育てていたアサガオの種を、新1年生にプレゼントするために準備している
- ・小学校→幼保こ各園に対して……
 - ・年長担任との電話連絡を密に行った。
 - ・1年生の子どもたちが、連携している近隣の6園に「小学校で待ってるよポスター」と「あさがおの種のプレゼント」を行った。校長のメッセージも一緒に配布した。
 - ・1年生の様子を学校のホームページで頻繁に紹介し、各園で参考にさせていただいた。
- ・今年度は学校見学や体験入学の時間がもてなかったが、小学校の子ども達から「学校は楽しいよ」「給食おいしいよ」「待ってるね」等が書かれたメダルや手紙をもらった。手紙は掲示して、子ども達の期待を高めていった。
- ・南桜塚小学校1年生が、年長児あてにお手紙と朝顔の種をプレゼントしてくれたのでお礼に年長児から1年生にお手紙を送りました。
また1年生担任の先生方と、1年生の様子や年長児の様子の意見交流(情報交換)を、電話にて行いました。
- ・桜塚小学校1年生から、小学校の様子がわかるDVDを頂きました。DVDを見て小学校への見通しが持てたり「小学校へ行くのが楽しみ」という声も多かったです。
DVDのお礼の手紙には小学校への期待を書く姿も見られました。
1年生担任と年長担任で、1年生・年長児それぞれの様子の情報交換会議を、例年に比べ少人数で対面にて行いました。
- ・コロナ禍であり、0～2歳児が在籍している保育園であることから、各校園所とは交流場面がもてなかった。2月になり、転所・引き上げ児が4月以降に在籍する園所とは電話で児の現状を引き継ぎ、連携を図った。4月以降にも引き続き、各園所との連携は継続しながら情報を共有していくこととなる。
- ・0歳児～2歳児までの乳児施設のため、直接的に小学校との関わりはありませんが、何事においても例年通りの生活をするのは難しかったです。
その反面、当たり前に行なってきたことの見直しもでき、コロナ禍だからこそ新たな発見もありました。

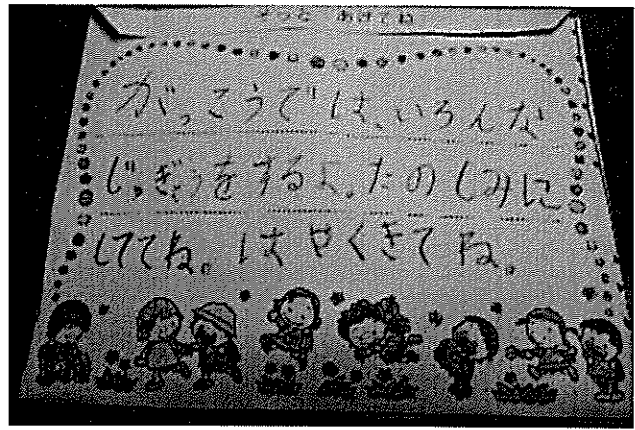
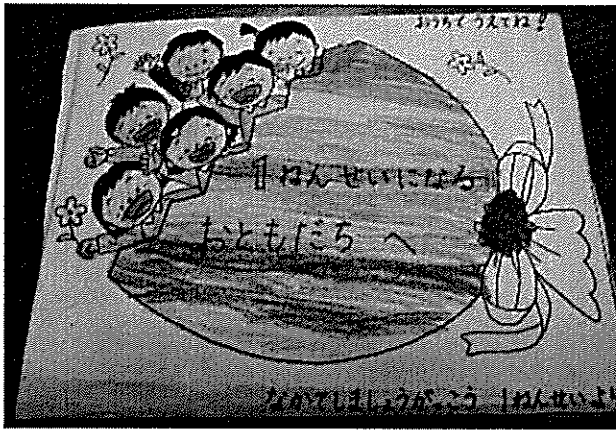
熊野田・泉丘小学校区

- ・今年度、連絡会や体験入学会は実施しませんでした。
新1年生の連携に関して熊野田幼稚園と熊野田保育園に園訪問を3月3日に行いました。
その他の園・所にはお手紙を配布したり、お電話をしました。
- ・子どもたち同士の直接の交流は難しいと判断したが、入学する子どもたちの様子を学校の先生に理解していただくための書類を学校の依頼で作成し、円滑な接続ができるようにした。園だよりや行事で保護者向けに掲示した壁新聞（ポートフォリオ）のコピーをお渡しして園での様子をお伝えした。
- ・小学校へ電話連絡し、年長児の子どもの様子を伝えた。また、支援が必要な園児については学校から園での様子を見学に来ていただき、担任とも直接やり取りをしてどのような支援が必要かを具体的に伝えることができた。入学後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。
- ・小学校の子どもたちから「みんなのこと、まってるよ」のお手紙をもらった。
受け取った5歳児はとても喜んで「しょうがっこうのおねえさん、おにいさんにおてがみをかきたい」と、早速、お返事を手紙やお絵かきでかき、職員が小学校に届けた。
- ・今年度は、小学校見学ができなかったため、手紙をもらったことで入学を楽しみにするきっかけをつくってもらい、期待をふくらませることができた。いただいた手紙は園内に掲示し保護者にも見ていただいた。
- ・小学校へは、入学予定の子どもたちの様子をしっかりと引き継ぎし、入学後も連携し、情報を共有していくことを確認した。
- ・小学校へ電話連絡し、年長児の子どもたちの様子は、紙面を通して伝えました。特に、気になる子ども達には、クラス分けも含めての配慮も伝えながら、入学後も引き続き連携していく事、情報を共有していくことを確認しました。
- ・夏休みのボランティアに小学生の受け入れをしたり、学童終了時の子ども達の受け入れをしていく事で（人数制限はあるものの）小学生に対する憧れや、遊びを通じた交流をはかることができました。
- ・小学校から「小学校の様子がわかるDVD」を借りて、園内で就学前の園児とその保護者とで1組ずつ観てもらい感想を聞いた。
- ・進学する小学校の支援学級担当者に来園してもらい、園での生活の様子をみてもらったり担任と対象児への園での関わりや気をつけていること及び保護者の特徴を伝えた。
- ・『1ねんせいのおせいかつえじてん』『1ねん1くみの1にち』を室内に置き子どもたちと疑問、個々の様子や不安な気持ちに寄り添って話をした。

中豊島・緑地・寺内小学校区

- ・緊急事態宣言下であったため、子どもたち同士の直接の交流は行うべきではないとの判断で体験入学を中止とした。しかしながら、園所の子どもたちの小学校入学への不安を少しでも和らげる必要があると考え、1年児童が自分たちで育てたアサガオから採れた種を同封した手紙を新入生説明会で保護者に配布した。(画像参照)

各園所へ電話連絡し、年長児の子どもたちの様子を情報共有した。入学後も引き続き連携していくことを確認した。



- ・体験入学の実施を感染防止の観点から見合わせたが、体験入学時に園児たちに手渡す予定にしていた、「アサガオの種」(1年生が育てたもの)を入学式時にメッセージとともに渡すこととした。こども園等には、学校職員が電話連絡をとり、新1年生の引き継ぎを実施した。引き継ぎ内容をクラス分け資料とした。
- ・3学期にメダルと封筒を作り、小学校の楽しいところの絵を描いた手紙と生活科の時間に育てた朝顔の種と一緒に校区内のこども園と保育園に届けた。
作り始めは、新入生を迎える気持ちになかなかならず、実感がないうだった。しかし、作っていく中で、だんだん自分たちは「2年生になるんだ。」という気持ちと、新入生を楽しみにしている気持ちが高まっているようだった。
- ・今年度は学校見学や体験入学の時間がもてなかったが、小学校の子ども達から、「学校は楽しいよ」「給食おいしいよ」「待ってるね」等が書かれたメダルや手紙をもらった。手紙は掲示して、子ども達の期待を高めていった。
- ・各学校より教員が訪問され、子どもたちの様子を観察していただき、各担任との申し送りを行った。又、電話でも連絡を行い子どもの様子を共有した。

- ・小学校入学への期待感をもつことをねらいとし、小学校からの手紙やメダルのお礼としての返事をみんなでつくり、どの小学校へ行っても同じであり、安心して入学できるよう連携を取った。
このような取り組みにより、園児たちは、就学への期待に胸をふくらませている。
- ・年長児6歳の誕生日のタイミングで『お誕生児キャンプ』（お泊り保育）を行い、毎回2日目の朝には小学校へ訪問し、校庭で遊ばせてもらうようにしている。6歳の誕生日という節目と小学校就学への想いが相まって、就学へ対して前向きに期待を持てるような取り組みとなっている。
- ・当園では、年間目標に「集団的な活動のなかで、認め合う経験を積み、仲間と遊び、仲間の一員として自ら行動する意欲や協同的な活動を充実させる。」とし、子ども自身による主体的な活動を大切にしている。また、プロジェクト型を基礎とした活動として田植えから脱穀まで、子どもたち自身の発見や対話を重視し活動を行った。席替えなどの生活に関することなどは子ども同士で話し合いを進めるようにしている。そういったことを経て、知的興味や関心を持ちながら、主体的に活動を楽しみつつ、自分の欲求と折り合いをつける気持ちが育ってきた。
就学に向けては、小学校へ期待や様子がわかるように、写真の資料を通して一日の過ごし方や、持ち物、大まかな学校施設について（図書室・理科室など）、子ども達に紹介をしている。また、小学校にいくと何ができるようになるのか、またどんなルールを守る必要があるのかを絵本を通じて考え話し合う活動をした。他には、幼保小連携連絡会や、体験入学がコロナウイルス感染症の影響のため全て中止となった為、各学校と書類や電話でのやり取りをし、情報共有し確認している。
- ・新型コロナウイルスの対策として、朝と夕方のお迎えの際に玄関対応を行った。口頭でのやりとりが少なくなるに伴い、ハンドブックやれんらくアプリを用いてアンケートを行い保護者との意見交換を行い、悩みなどを共有した。
- ・行事の実施が行えなかった分、YOUTUBEで日頃行っている体操、わらべうた等家で出来る遊びや玩具の紹介を行った。
- ・懇談会も行えなかったため、事前に保護者に悩みや他の家庭に聞いてみたい事をアンケートで聞き、それに対して返答したり、保育者から発信したい育ちや発達過程を動画や写真を用いて、まとめて配信した。
- ・クリスマス会等、保護者会主催の行事も集まる事が出来なかった為、中止し子ども達にどのようにプレゼントを渡すのか演出を考え、YOUTUBEで動画配信をした。
- ・園庭で過ごす際も密にならないように、時間帯を変えたりして出来るだけ他クラスと被らないように保育を組み立てていた。
- ・新型コロナウイルス感染予防の為、日中マスクを着けて保育を行っていたが、乳児の成長にとって表情が見える事は大切だが、今回見えない所で、何か伝える時は、側に行き声を掛ける様に意識したり、肌で触れ合いながら安心感を与えられるようにしていた。

豊島・豊島西小学校区

- ・今年度予定していた体験入学（幼保小交流）はコロナの関係で中止となったので、本校と関係のある幼稚園・保育所・こども園に、本校の学級園で育てたヒマワリの種と児童作成のメダルを送付した。
- ・幼保小連絡会及び交流会はすべて中止とした。幼稚園、保育園、こども園には、小学校から連絡調整し、教職員が手分けして園訪問を実施し、今春入学する年長児の子どもたちの様子を聞き取った。また、入学後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。
- ・豊島小学校の1年生から頂いたメダルとメッセージを子どもたちに紹介する。
メダルは、保育士から一人ひとりの首にかけ、メッセージはいくつか読み上げた後に保育室内にも掲示する。子どもたちは、1年生からのメッセージに興味津々で、自ら掲示されている文字を読み、期待を膨らませている様子である。
この取り組みの様子は、写真に記録し、園だよりを添えて豊島小学校へ届ける予定である。
- ・保育活動の中で、『小学校』とはどんなところか？何があるか？など、進学をイメージできるような話をする。子どもたちの方から質問をするなど、進学を楽しみにする姿がより育まれた。
- ・子どもたち同士の直接の交流は難しいと判断したが、お散歩に行く途中で小学校の前を通り、小学校の紹介をした。
- ・小学校の子どもたちから学校紹介のお手紙と、メダルをもらった。0～2歳児までの小規模保育園なので、まだすぐには小学校にはいかないが、大きくなったら小学校に行き、優しいお兄ちゃん・お姉ちゃんがいるのだと、楽しみにしている様子だった。一緒に遊びたいとも言っていた。
- ・小学校へ電話連絡し、年長児の子どもたちの様子を伝えた。また、入学後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。気になる子の引継ぎは、直接、小学校の先生が園に見学に来られ、様子を見ていただき、担任より様子を伝え、配慮をお願いした。
- ・小学校の子どもたちから手紙とメダルを先生が園に持参くださる。子どもたちに渡したところ、嬉しそうに首にかけ、小学校への期待を抱いていた。
- ・今年度は小学校見学ができなかったため、学校の様子を絵本や資料を見せ、期待を持てるように工夫した。また、小学校入学に向けて、保護者と一緒に生活習慣を整えることや、小学校までに身に付けること（体操着をたたむ、お道具箱の整理、お話を聞くなど）を小学校生活に向けて年長クラス全員で取り組んでいる。
- ・自園は0～3歳児クラスのため、小学校入学への期待とまではいきませんが、園内での取り組みでは3歳の子どもたちが一番年上だと自覚ができるように低年齢クラスへ行き、遊んであげたり、お手伝いをしてあげたり、一緒に過ごす中で異年齢児との交流を深め、思いやりをもつ気持ちが芽生えたり、喜んでもらい認めてもらうことで自信がついていく姿があった。
小学校との交流は出来なかったが、お兄さんやお姉さんの姿は窓から見えるので「〇〇やってるね」

「何をしているのかな？」などと興味や憧れをもつ姿があった。又、小学校の子ども達が作ってくれたメダルを頂き 3 歳児クラスの子どもたちに見せ、部屋に飾ると「お姉さんたちにもらったよ。頑張ってください！だって」と喜びを保育者や低年齢クラスの子どもたちに伝え、進級に向けて期待をふくらませていた。

- ・小規模保育園のため、小学校との交流はなかったが、毎年、小学校の校庭には遊びに行っていた。今年に行けなかったため、来年度は行きたいと思う。

豊島北・原田小学校区

豊島北小・原田小学校区

1. 令和2年度(2020年度)の状況

今年度は、新型コロナウイルス感染症による休校等に始まり、年間をとおした取り組みを手探りですすめざるを得ない1年でした。幼保小連絡会も中止となったことから、本書面での交流という形で行わなければなりませんでした。

このような状況ではありましたが、各校園が子どもたちをしっかりと受けとめ育んだ創意工夫は、これからの取り組みに活かされる経験でもありました。

2. 各校園の取組み

豊島北小学校…新型コロナウイルスの影響で集団活動が制限される中、出来る限り様々な教科において少人数での話し合い活動を取り入れました。話を最後まで聞けない児童が多かったが、今では友だちの考えを聞いて相槌を打ったり、拍手をしたりするなど人の話に興味を持って聴けるようになりました。

原田小学校…今年度はコロナに振り回された一年でした。入学式はしたものの、翌日から休校が始まり、連休明けからの分散登校を経て、全児童がそろっての通常授業開始が六月半ばでした。また運動会や学習発表会などの行事は簡素化され、宿泊行事も日帰りとなり、児童には可哀そうな異例の年となりました。

てしまこども園…各クラスそれぞれ一冊の絵本や幼年童話をじっくり楽しみ、それをもとにごっこ遊びや劇遊び、人形劇にするなどの活動を深めました。物語の続きをみんなで作るという流れが生まれたクラスもあり、半年間をかけて学びに向かう力「豊かな感性と表現」「言葉による伝え合い」が特に高まりました。

原田こども園…新型コロナウイルス感染症拡大に伴い幼児クラスは、室内のみマスクの着用をしています。怖がるだけでなく正しく知ることが大事だと考え、看護師が「どうしてしんがたコロナになるの？」の絵本を通してマスクのつけ方を子ども達に伝えると「ウイルスが体に入っても病気になる人があるんだって！」と興味深く聞いていました。

超光寺幼稚園…運動会・合奏などの発表会・制作展など、例年の行事と、米作り・味噌づくり・野菜作りなどの自然と食のつながりを体験する活動を通して、「できた」という成功を目指します。うまくいかないことを協力して乗り越えることで、生きていく力を身につけます。

アスク曾根南保育園…0・1・2歳児のみの園児同士、異年齢の交流を深めようという目標を立て、随時1・2歳児クラスでの交流を図り、秋にお店屋さんごっこを行いました。2歳クラスがお店を出し、1歳クラスがお客さん、0歳クラスには2歳から品物の配達をして、アットホームに楽しむ姿が見られました。

おひさま岡町保育園…今年度は、コロナ禍ということもあったのですが子どもたちは、元気に身体を動かして遊んでいます。その中で、今年は“荒馬”という青森県の伝統民舞に取り組みました。しっかりと地面を踏み、ともだちと動きや掛け声を合わせる楽しさを感じることができた運動会でした。

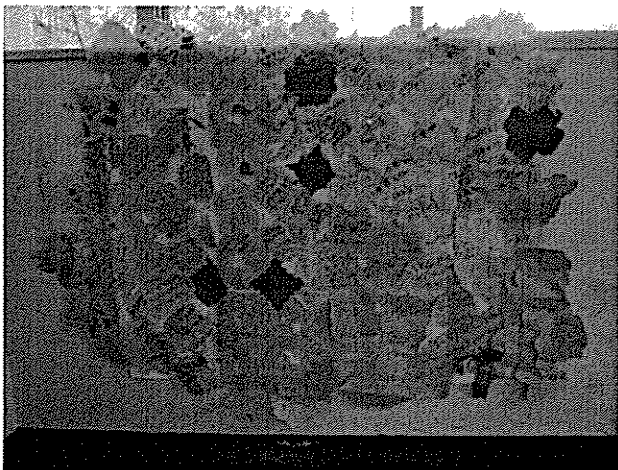
トレジャーキッズふれあい緑地保育園…縦割り保育をベースに過ごす中、5歳児のみ活動もしています。1つのテーマについてみんなで調べていて、現在はハンディーキャップを抱える人について考え手話で歌を歌っています。他にも鍵盤ハーモニカをしていてクラスみんなで1つの事をやり遂げる経験をし次へ繋がるようにしています。

ひかり保育園…グループで話し合ったり、人の話を聞く等の活動を行ってきました。園行事の1つである“お買い物ごっこ”の話し合いでは、提案をしたり話を聞く等のやり取りを活発に行う事が出来ました。そういった活動や経験を通して、お互いの気持ちを大切にするという事を前提に話し合いが出来るようになりました。

- ・小学校とは電話による交流を行い昨年卒園した子供の様子を伺ったり、現在の年長について伝え、又、少し気になる子供については、何度かにわたって様子を伝えた。2校より年長児にメダルやメッセージのプレゼントを頂き、メダルは各自大切に持ち帰り校長先生や1年生からのメッセージは掲示板にはり、子供たちは学校へ行く期待が高まったようだった。
- ・各小学校より、児童の手作りのメダルや学校案内のポスターが届いた。年長児に就学の期待が持てるように配布や鑑賞を行った。
- ・小学校教諭に来園してもらい、入学者の引継ぎを行った。
- ・1年生が交流会で手渡す予定だった朝顔の種と手作りのペンダントを届けてもらった。小学校のことを知る良い機会になるように、各クラスで子ども達に見せ、同封のメッセージを紹介した。「小学校では歌を歌ったり運動会をしたりして楽しいよ」「早く会いたいな、待ってるね」など、小学校に行くことが楽しみにできるような内容で、もらった子ども達も嬉しそうだった。
子ども達からもお礼の手紙を書き、小学校へ届けると共に、子ども達の様子をクラスだよりや玄関掲示で、保護者にも取り組みの様子を伝えた。
- ・今年度の連絡会及び体験入学については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催することはできなかったが、小学校の子ども達が作成した手紙とアサガオの種を幼稚園の年長児に送ってくれた。
受け取った年長児は、それぞれがもらった手紙を見て、「小学校ってどんなところやろうなあ」「行ってみたいなあ」等とつぶやき、わくわくする気持ちを思わせるような笑顔を見せていた。
- ・小学校の教員方が幼稚園に訪問して頂き、年長児の様子を見るなど入学への準備や大切づくりを協議することができた。
- ・学校長や担任、養護の担当者と校長室で協議するなど、綿密な交流を行うことができた。
- ・小学校とは電話による交流を行い昨年卒園した子供の様子を伺ったり、現在の年長について伝え、又、少し気になる子供については、何度かにわたって様子を伝えた。2校より年長児にメダルやメッセージのプレゼントを頂き、メダルは各自大切に持ち帰り、校長先生や1年生からのメッセージは掲示板にはり、子供たちは学校へ行く期待が高まったようだった。

小曾根・北条小学校区

- ・本校では園児に対して1年生からのお手紙と、紙コップと松ぼっくりで作ったけん玉をプレゼントさせてもらいました。
その際、園の先生方から、各校からこうして対応してもらうことで、子ども達の就学への不安が楽しみに変わっていているという言葉頂きました。
- ・密になることと、児童と幼児の接触を避ける方向で1月22日と27日、2日に分けて幼保小交流会を予定したが、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が発令されたためやむなく中止した。小学校の子どもたちが交流会で幼児にプレゼントするために用意していた、手書きのメッセージ入りのメダルを交流会参加予定の子どもたちに各園所を通じて届けてもらった。各園所から感謝のお言葉をいただくことができた。また、来年度の入学式で学校紹介の歓迎アトラクションもしないことになったので、1年生が作成した1年間の学校生活の紹介文（文と絵で構成）をカラーコピーして各園所に届け、新入生に紹介していただくよう依頼した。
- ・上記取組みを受けて、2園からお礼のメッセージが届いた。1園からは、園児が一人一人書いたお礼のメッセージを貼り合わせたポスターを先生が届けてくださった。もう1園は、一人一人の園児が書いたお礼の絵やメッセージと園児の集合写真が入ったポスターを、年長園児全員で学校まで届けに来てくれた。今回直接合わせることは避けることにしたので、1年生が教室の窓から園児に手を振って、お礼の言葉を伝え、園児も1年生にお礼の言葉を届けるなど、エール交換をすることができた。ポスターは1年生全員に紹介し、教室前に掲示している。



- ・各小学校から頂いた学校紹介の手紙やDVDを子どもたちに見せ、DVDの内容はクラスノートで保護者にも伝えていった。在園児の兄・姉からいただいた学校紹介の手紙も読み、入学に向けての不安を少しでも和らぐようにし期待へとつなげていった。

- ・園児の就学先の小学校を5歳児担任が周り、学校周辺の写真（校門・校庭など）を撮影し、ファイルにまとめ、いつでも手にして子どもたちが見れるようにしていった。
- ・学校生活が分かるような絵本を用意した。
- ・小学校と同じ給食に時間帯に食事がとれるように徐々に時間をずらしていった。
(朝食をしっかり食べる習慣をつけてもらうため)
- ・小学校と連絡を取り合い、子どもの様子を少人数で見に来ていただき、様子を伝えた。
- ・今年度の連絡会および体験入学は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、子ども達同士の直接の交流は中止とした。小学校とは電話や話し合う時間を持ち年長児の子ども達の様子を伝えた。また、入学後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。
- ・小学校の子ども達から学校紹介のお手紙とメダルをもらった。受け取った年長児は「給食おいしいんだ」「先生やさしいって」「ドキドキしてたけど安心したわ」等と、ホッとした表情で嬉しそうにつぶやいていた。
- ・年長児からは小学校の児童へ“入学を楽しみにしている”という内容の手紙を渡した。
1年生からのメッセージで安心すると共に、小学校に対する期待が膨らんだようです。
- ・小学校入学への期待感をもつことをねらいとし、小学校からの手紙やメダルのお礼としての返事をみんなでつくり、どの小学校へ行っても同じであり、安心して入学できるよう連携を取った。
- ・このような取り組みにより、園児たちは、就学への期待に胸をふくらませている。

庄内・野田・島田小学校区

- ・今年度は、コロナ禍のため、体験入学や交流についても何らかのとりくみを創ろうと議論はしたものの、緊急事態宣言が出されたり、子どもたちの活動が様々な制限される中で、結果的には子どもたちの交流を持つことができなかった。
その分、日頃から連携を大切にし、特に新一年生の受け入れについては、個別の聞き取り用紙を準備し、それぞれの園に訪問に行ったりして、丁寧な引継ぎを行った。
- ・子どもたち同士の直接の交流は難しいと判断したが、双方の子どもたちの様子を教職員が理解し、それぞれの日常の活動で意識することで幼保小の円滑な接続に活かすこととした。
コロナ禍により体験入学は中止となったが、こども園の散策中に、本校を外から見学していただき、体育や休憩時間中の児童の様子を見てもらった。また、4月から本校に入学予定の園児の情報については、各園に赴き、ヒアリング及び児童の様子を担当教員が観察し、入学後のより良い学校生活に向けての準備をすすめた。
- ・体験入学が中止になり各学校から子どもたちに向けて、小学校入学に期待を持てるように1年生が考えた手づくりのプレゼントが届く。内容は様々で、学校紹介のような壁新聞、どんぐりで作ったマラカス、朝顔の種、子どもたちがDVDで学校紹介をしてくれている映像など、子どもたちが考えたプレゼントをいただく。修了式の前日に全員で集まってDVDを見たりプレゼントを受け取り学校に期待を寄せることができるようにしていく。
- ・学校との引継ぎを、実際に子どもの姿を見てもらってから、担任が気になる子どもについて園で大事にしている関わりや手立てを伝える。入学してからも連携していくことを確認する。
- ・小学校の子どもたちから、学校紹介の壁新聞をいただいた。受け取った年長児は、パソコンルームがあること、電車に乗って遠足に行くことを知り小学校入学を楽しみにする姿があった。また、小学校が6年生までということを知らない子どもも数名いて、6年生までランドセルを使うことに感心していた。
- ・小学校の職員が来園し、年長児の子ども様子を見ていただき、担任から子どもの様子を伝えた。入学後も引き続き連携を行っていく確認ができた。
- ・メッセージ動画や子どもたち手づくりの壁新聞を送っていただいたので、子どもたちと一緒に見ながら小学校進学について話し合った。学校探検の映像や、在校生の学校紹介の記事などに触れ、「早く行きたい」「お兄さん、お姉さんといっしょに遊ぶのが楽しみ」といった期待の声がたくさん聞かれた。
- ・小学校からDVDや手紙が届いたので、それを園児たちと閲覧した。
- ・各小学校の先生が個別に来られて、園児たちの姿を共有し、特徴を伝えた。

庄内南・庄内西・千成小学校区

令和2年度（2020年度）の取り組みについて 庄内西・千成・庄内南小学校校区まとめ

○今年度は集合型の会議は行わず、アンケートを実施しました。

①新型コロナウイルス感染症の影響によって中止した教育活動・行事

庄内こども園	・プール ・こどもまつり ・納涼会 ・もちつき ・マラソン ・クラス懇談 ・地域交流
庄内西こども園	・プール活動（密を避けた水あそびに変更）・地域の方との交流・高齢者施設との交流 ・遠足
栄町こども園	・プール・こどもカーニバル（5月：親子で遊ぶ）・夏祭り（保護者主催）・クラス懇談会・子育て後援会
せんなりこども園	・親子で遊ぼう ・プール・七夕まつり・老人施設訪問 ・老人会との交流（グランドゴルフ・お正月遊び）
庄内こどもの杜幼稚園	・お兄ちゃんお姉ちゃん先生（小学生の一日保育）・おばあちゃん先生
庄内西小学校	・土曜参観・水泳（プール）・春の校外学習・サマーカーニバル・学習発表会・冬のオープンスクール・新一年生体験入学・あひるクラブ（読み聞かせ）・修学旅行・林間学舎
千成小学校	・修学旅行・林間学舎・集団登校・全校縦割り清掃・児童委員会活動 ・オープンスクール・学習発表会・授業参観
庄内南小学校	・春の校外学習・庄内南お話サークル読み聞かせ ・水泳指導・家庭訪問（1年生対象）・修学旅行・林間学舎・授業参観（オープンスクールは分散実施） ・たて割り清掃

○内容を変更して実施した行事の変更点 ～運動会～

運 動 会	・内容を縮小し、乳児と幼児で時差をつけて実施。保護者参加は2名まで	庄内こども園
	0歳児クラスは中止1・2歳児クラス ミニ運動会（1クラス15分程度）幼児クラス（別日に開催） 1クラス15分程度短縮で開催	庄内西こども園
	1・2歳児は親子でふれあい・体を使って遊ぶ。 3・4・5歳児はクラス完全入れ替え制で保護者に見てもらう	栄町こども園
	・親子で遊ぼう・プール・七夕まつり ・老人会との交流（グランドゴルフ・お正月遊び）・老人施設訪問	せんなりこども園
	入れ替え制で実施。（時間短縮）	庄内こどもの杜幼稚園
	午前中で終了するプログラムにした	庄内西小学校
	午前中で終わるよう縮小して実施	千成小学校
	団体演技なしのスポーツ大会に変更	庄内南小学校

○内容を変更して実施した行事の変更点 ～生活発表会・学習発表会～

生活発表会	内容をクラス発表の出し物のみとした。保護者の参観はなしとなったため、後日ビデオ上映会を少人数ずつ実施。	庄内こども園
	乳児クラスと幼児クラスを別日で開催の予定だったが、緊急事態宣言が発令されたため、年長児のみ無観客で開催	庄内西こども園
	1・2歳児中止。3～5歳児無観客	栄町こども園
	ビデオ視聴に変更	せんなりこども園
劇あそび会	入れ替え制に変更して実施	
たそがれコンサート遊び (音楽会)	動画配信で行った。	庄内こどもの杜幼稚園
学習発表会	学年発表会として開催予定だったが、1学年以外は撮影した動画を後日学校でクラスごとに視聴する方法に変更	庄内南小学校

○内容を変更して実施した行事の変更点 ～その他の活動・行事～

庄内こども園	デイキャンプの飲食をなくした。
栄町こども園	保育参加を分散型に変更
せんなりこども園	七夕まつりを秋まつりとし、園内だけで行う（保護者・OB不参加）
	保育修了式は一家庭一名の参列
庄内こどもの杜幼稚園	クラス懇談をZOOM（オンライン）で開催
	個人懇談会をオンライン対応可とした
	職員会議のオンライン実施
庄内西小学校	春の校外学習を近くの公園での遊びに変更した
	全校朝会や終業式の集会は放送やビデオで行った
千成小学校	6年生は修学旅行を日帰り旅行に変更
	5年生は自然体験学習に変更
	運動場や体育館での全校朝会に代えてTV朝会として各クラスへ放送
庄内南小学校	6年生修学旅行を日帰り体験学習に変更
	5年生は自然体験学習に変更
	全校朝会や始業式・終業式等を放送、学習サーバに入れた録画の視聴、オンラインのいずれかで実施
	健康観察のため職員の打ち合わせを放課後に変更
全小学校	給食時は全員前を向いて黙食

○施設等の消毒について

	使用したもの	消毒場所	消毒の時間帯
庄内こども園	・ハイター ・アルコール	机・椅子・ドアノブ・床・電話・インターホン・スリッパ・おもちゃ	随時
庄内西こども園	アルペット アルコール	保育室内全体・共有で触れるドアノブや手すり等は入念に	随時時間帯は決めず、子どもがいない時に。おもちゃは交代制
栄町こども園	キッチンハイター・ピューラックス	各部屋・共有の場所・共有で使うもの(おもちゃ・テーブル等)	随時
せんなりこども園	アルコール 次亜塩素酸ナトリウム希釈液(200ppm)	【毎日】使用したおもちゃ・ドアノブ・スイッチ・窓のカギ・手洗い場・使用した机・階段の手すり・トイレ(手洗い場ドアノブ・水洗レバー) 【週2回(水・土)】床(保育室・廊下・遊戯室)	降園後
庄内こどもの杜幼稚園		・門の前で来園者全員消毒(7:00~19:00 常時) ・ホール利用者はホール入口で消毒 ・玩具、棚、椅子を拭き掃除。 ・職員室・机・椅子・つい立て・機材等毎朝消毒(随時)	
庄内西小学校	アルコールスプレー	児童机*・いすの背もたれ・手洗い蛇口・ドアの取っ手・給食配膳台*	給食前は*のみ、放課後はすべて
千成小学校	アルコール	共有部分・児童机・給食配膳台	随時
庄内南小学校	次亜塩素酸ナトリウム希釈液 アルコール	共有部分・児童机・給食配膳台	給食時に配膳台を消毒。共有部分は午前中他の場所は放課後

○今年度を振り返って

庄内こども園	○感染予防で特に密を防ぐためには、行事や生活面全体の見直しが必要な一年だった。中止や縮小せざるをえないことは残念だったが、今までの保育の一つ一つのねらいや目的を再確認する機会ともなった。無駄を省いたり、代わりとなる経験を考えたりできた。制限のある毎日が続く中でも、もう少し工夫できる余地もあると課題も見つかった。
庄内西こども園	○今年度は4月当初から登園自粛依頼をするなど、いろいろな活動が例年のように行うことができなかつたため、こどもたちの経験不足につながつたと思う。 ○保護者の参加もかなり制限したため、成長ぶりを生でみてもらえなかつたのも残念だった。

<p>栄行いも園</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症対策のため、制限されることもあったが、行事のねらいや何を大事にするかを考える機会になった。 当番活動や行事など、従来のやり方を変えることで良かったこともある。たとえば誕生会など今まで全体でしていたことが、乳児、幼児をわけることで、内容がより年齢に応じたものになり、集中して参加している姿などがみられた。逆に密を避けるために乳児・幼児の交流が減り、あそびへの刺激が減った。</p>
<p>せんなりこども園</p>	<p>○コロナの影響で異年齢交流の活動をほとんど行うことができなかった。せんなりこども園は地域との交流や異年齢交流に長年取り組んできたので、最後の年（せんなりこども園は閉園が予定されている）にできない活動が多く残念な思いだった。 保護者の協力や理解のもと、現状を受け入れ、子どもたちにとって一番良い保育の形は何か、絶えず職員間で話し合う機会を持てた。</p>
<p>庄内こどもの杜幼稚園</p>	<p>○コロナ禍の中で、様々な変更をせざるを得ない状況の中、簡単に行事や活動を中止するのではなく、“正しく恐れて正しく行動する”をモットーに、オンラインや入れ替え制等工夫して行いました。すると、子ども達から、「消毒したほうがいいよ」や、「動画配信したい」という声があがるようになりました。何ごともあきらめるのではなく、大人が試行錯誤し続けることで、子どもも何ごとにも挑戦してみたいと思えるようになるという事がわかった一年でした。</p>
<p>庄内西小</p>	<p>○4月の入学式後、約2ヵ月の休校となり、一年生にとっては初めての小学校生活+コロナ対策で、精神的負担が大きかった。中止となった行事は多かったが、一人一台タブレットの導入により、国語や算数の学習サポートを充実させることができた。</p>
<p>千成小</p>	<p>○前年度の3月から、子どもの居場所づくりもあり、様々な機関との連携を行った。 参集型の会議が行われなため、地域の皆様との交流が出来なかったが、文書による交流をするなど、工夫をした。</p>
<p>庄内南小</p>	<p>○長期の休業、2度の緊急事態宣言発令があり、行事を計画しても、直前で中止や変更を余儀なくされ、一生懸命やってきたことが一瞬で無駄になることが続き、教職員のモチベーション維持が難しかった。また、子どもたちや保護者にもはっきりとした予定を伝えられないもどかしさを感じた。異学年での交流も、手紙での交流にとどまったので、今後の活動は十分配慮が必要だと感じる。一方でホームページの更新や学校連絡メールの効果的な利用方法を知ることができたことや、後半はタブレット導入による新しい指導方法が加わったことで、今までとは違う教育活動の可能性が広がったことはよかったと思う。</p>

○各小学校と各園での交流行事は、手紙での交流や学校紹介ビデオを作成することで行いました。気になる子どもの交流はそれぞれで訪問・電話等で対応してもらいました。

- ・小学校の様子がわかるDVDや校内案内図を小学校から届けていただき、それを見ることで小学校への期待感が高まった。一人で小学校に行かなければならない子どもも数名いるが、小学校のしくみがよくわかり安心感につながった。
 - ・年長児の子どもの様子について小学校に電話連絡し、口頭で伝えたり資料を手渡したりした。また可能な範囲で、園生活の様子を見に来てもらう日を設けた。
 - ・入学後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。
-
- ・例年実施している小学校との交流会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。それに代わり、小学校1年生から園へ小学校紹介メッセージを送ってもらった。写真入りのわかりやすい紹介メッセージに、園児たちは大いに興味を持ったようであった。
 - ・各小学校からの入学予定年長児の視察については、担当教員が来園する学校もあれば、電話での聴取のみの学校もあり、対応はまちまちであった。

豊南・高川小学校区

- ・新型コロナ感染拡大防止のため、例年行っているハッピーワールド（次年度入学生と1年生との交流会）は行わず、小学校の授業・遊び時間や掃除の様子を紹介と年長さんに向けたメッセージを撮影し、DVDにまとめて交流先の各園に配布して観てもらった。また、子どもたちが手作りした『まってるね』メッセージカードもプレゼントした。
- ・このDVDやプレゼントを作るに当たって、1年児童にどこを見せたいのか、どんなプレゼントにするのかを考えさせる取り組みを行った。
- ・各小学校から頂いた学校紹介の手紙やDVDを子どもたちに見せ、DVDの内容はクラスノートで保護者にも伝えていった。在園児の兄・姉からいただいた学校紹介の手紙も読み入学に向けての不安を少しでも和らぐようにし期待へとつなげていった。
- ・園児の就学先の小学校を5歳児担任が周り、学校周辺の写真（校門・校庭など）を撮影し、ファイルにまとめ、いつでも手にして子どもたちが見れるようにしていった。
- ・学校生活が分かるような絵本を用意した。
- ・小学校と同じ給食時間帯に食事がとれるように徐々に時間をずらしていった。
(朝食をしっかり食べる習慣をつけてもらうため)
- ・小学校と連絡を取り合い、子どもの様子を少人数で見に来ていただき、様子を伝えた。
- ・小学校1年生の子どもたちから、学校紹介の手作りポスターを頂きました。ポスターには、色々授業や運動会、遠足など行事の写真を貼って、ひらがなで分かりやすくコメントが書いていました。
年長児の保育室に掲示すると、子どもたちは「運動場も体育館も広いなあ」「小学校に行くのが楽しみ・・・」等とつぶやき、笑顔いっぱいで見っていました。
- ・小学校より入学する子どもたちの様子を知っておくため、園訪問の依頼があり来園して頂きました。保育中の様子を見て頂いたり簡単に情報を共有し、入学後も引き続き連携を取っていく事を確認しました。
- ・今年度は小学校の様子を1年生が紹介してくれるDVDを見せていただきました。
小学校の授業や一日の流れなどをとても興味深く、じっくりと見ていました。
また、昨年度まで在園していた1ねんせいのお友達が出てくると、ほっとしてうれしそうな表情になっていました。なかなか交流のできなかった1年でしたが、DVDでのメッセージで小学校の様子を知ることができ、少し安心して小学校への期待がもてたのではと思います。
- ・小学校の子どもたちから壁新聞をもらった。
受け取った子どもたちは「嬉しい!!」「かわいい!」と大喜びだった。
3クラス1日ずつでまわしてみんなで楽しみ、学校生活への期待も持てたように思う。